

平成 15 年度 第 10 回定例常任理事会 速報録

日 時 平成 16 年 1 月 24 日 (土) 午後 1 時 ~ 5 時
場 所 日本病院会会議室
出席者 定数 24 名 (出席 20 名、委任状 2 通) 顧問・参与等 12 名

〔承認事項〕

1. 会員の入退会について

正会員の入会が 2 件と退会 1 件、賛助会員の入会 1 件と退会 2 件について諮られ、承認された。計、正会員数は 2,737 病院 (公的 965、私的 1,772、総病床数 72 万 400 床)、賛助会員数は 526 会員となった。

2. 厚生労働省及び各団体からの依頼について

- (1) 生活習慣病予防週間の後援 (依頼元: 厚労省健康局長)
 - (2) 第 1 種 ME 技術実力検定試験及び講習会の協賛 (日本エム・イー学会)
 - (3) 国際シンポジウム「バーコードは患者安全に役立つ」の後援 (医療情報システム開発センター)
 - (4) 第 52 回日本医療社会事業全国大会・第 24 回同学会の後援 (日本医療社会事業協会)
 - (5) 地域交流会の後援 (日本医業経営コンサルタント協会群馬県支部)
 - (6) 認定審査会委員の推薦 (日本医業経営コンサルタント協会)
- 上記のうち(6)は織本理事を継続推薦し、他の後援、協賛依頼を承認した。

3. 一泊人間ドック実施病院の指定について

一泊人間ドック指定 1 件について、調査報告書にもとづき承認した。

4. 診療情報管理士受験校の指定について

認定試験受験指定大学 1 件について、調査報告書にもとづき承認した。

5. 第 3 四半期一般会計及び特別会計の収支・監査報告について

10~12 月の第 3 四半期一般及び特別会計について、概ね昨年同期と同程度という収支報告を承認した。

〔報告事項〕

1. 各委員会、研究研修会の開催報告について

- (1) ホスピタルショウ委員会(12/3)...国際モダンホスピタルショウ 2004 (7/14~16、東京ビッグサイト)について、企画展示「在宅医療と地域連携」「医療情報ネットワークと病院マネジメント」の2件の中身を詰め、展示コーナー等を検討し、ポスターを選定した。
- (2) 予防医学委員会・人間ドック・健診施設機能評価準備委員会(12/26) ...平成16年度から、日本人間ドック学会の中にこの委員会を本委員会として運営し、企画部会、研修部会、特別部会、評価部会を設けることとした。機能評価にあたっては書面調査票を事前に提出してもらい、サーベイヤ-2人で訪問審査し、午後半日の審査時間として、審査料は35万円を予定している。一泊ドックの既施設指定600余のうち、年間200位のペースで審査していく予定。
- (3) インターネット委員会(1/8~10) ...今度の診療報酬改定の諮問答申をインターネット掲載するが、前は膨大なアクセスが殺到したのでこれを踏まえて準備するとともに、改定の要点や問題点、目玉などについて医事研委員の解説を、時期をずらしながら3回程度配信する予定である。第54回日本病院学会のシンポジウムメンバーを確定させた。今回、碧南市民病院を視察したが、院内主体のネットワークで、これから地域連携に取り組むという内容であった。
- (4) 広報委員会(1/16) ...次期シリーズ特集として提案していた混合診療の問題は、執筆依頼の段階で実際上困難なことがわかり、これを取りやめて、「表面化する医師の需給問題 地域医療は守れるのか」のテーマを取り上げることとした。3年間の委員会活動を振り返り、今までの会員向け広報から対外広報主体に方向転換していくこと、日病ニュースは読者を引きつける紙面づくりをしていくことを次期委員会に引き継いでいくとした。
- (5) 感染症対策委員会(四病協合同感染症対策委員会)(12/17、1/22) ...第2回感染管理講習会の第1クールが11/29~30開かれ、定員を大きく上回る応募があったが380人が受講し、第2クール(2/28~29)の役割分担を決めた。第54回日本病院学会では「SARSを中心にした肺疾患」について、国立感染症研究所の岡部先生の特別講演

を行うこととした。委員の勉強会として、12月は「SARSとインフルエンザ」のテーマで岡部先生、1月は「エイズと結核、わが国の現状と展望」で国立療養所東京病院の永井先生から講義を受けた。いずれも日病雑誌に寄稿してもらうこととした。

(6) 通信教育委員会・診療情報管理課程小委員会(1/19) ... 専門課程のテキスト2冊が完成し、その前の基礎課程とあわせ教科書の見直しがほぼ完成した。当委員会のICD-9CMの日本語翻訳版が2/6に出版される予定である。診療情報管理士の受講生が6,000人を超える状況で、日病でやってきた教育の道筋は変わらないが試験等の認定事業を四病協の別組織で行いたいと提案し、了承された。

(7) 医療制度・社会保険老人保健合同委員会(1/23) ... 地域医療に関する関係省庁連絡会議、医療分野における規制改革検討会、社会保障審議会介護保険部会について、それぞれ出席報告がなされ意見交換した。診療報酬改定の検討項目について議論し、DPCの問題も活発に取り上げられた。点数改定は2/4諮問、2/6答申の線が出ており、改定説明会は3/10東京(公私連と共催)、3/11神戸で実施予定。

(8) 学術委員会(1/23) ... 日病雑誌2月号を配布、グラフで診療録管理学会特集や役員の記事等を掲載している。“雑誌の刷新”のために編集業務の外部委託を検討し、最終的に4社に絞って見積りをとり総合評価を行った。近々決定させる。新入会員の紹介など新しいコーナーも始めたい。3月号の編集と4月号の企画を行った。

2. 四病協諸会議の開催報告について

(1) 総合部会(12/17) ... 当日は中医協総会の最終局面にあたり、もしもとまらなかつた場合の対応は8人委員会に委ねるとしていたが、その後改定幅ゼロで決着した。財務省の診療報酬引下げ方針に対する反対声明を12/11厚労省に提出、その後記者会見を行い、国会議員に面会した。四病協共同事業の事務取扱いについては四病協研修センターのような別組織を立ち上げ、経済的に独立させることとした。

(2) 医療保険・診療報酬委員会(1/9) ... 中医協の診療報酬改定の基本方針に対する四病協の意見として、最重点要望事項1項目(入院基本料の増額)、要望事項10項目(手術に係る施設基準の廃止、ICUに準ずる機能を有する治療室(ハイケア病室)の導入、亜急性期医療を主体とした地域一般医療を提供する病棟の評価等)をまとめ、中医協の動向を見

て提示することとした。「入院時食事療養費に関する緊急調査」は 84 病院を集計したが、人件費や食材費の地域差が大きく統計的に公平でないという前提で厚労省へ報告した。「180 日超入院患者の特定療養費化に関する実態調査」は 13 病院・4,409 人の入院患者中 180 日超患者 632 人の集計で、除外規定該当患者が 89%、自己負担徴収 7.4%などの結果が出たが、更に内容を分析整理して議論の場に臨むこととした。

(3) 医業経営・税制委員会(1/21) ...平成 16 年度税制改正の結果について、自民党の税制改正大綱をもとに議論したが、かなり年金、医療を締め付けており、医療法人の事業税特例は続くけれど、個人向けはかなり負担増があり福利厚生面が大きく出費増となる、などと論議した。

(4) 医師臨床研修の補助について...研修費補助金の件で 1/21、厚労省から 8 人委員会に説明があり、16 年度補助金の予算案は 171 億円で、研修医に対しては教育指導経費として 110 万円、宿日直研修事業として 15 年度の支給実績額をもとにした補助金の最高が 110 万円、これに最低賃金額の 140 万円をあわせ総支給額 360 万円をイメージしている。この額であればアルバイトなしで研修でき、これに向けて協力してほしいという趣旨であった。新規の臨床研修病院に対してはこれから詰めを行い、診療報酬関連の話はまだ中医協で決着してないと説明。

3 . 地域医療に関する関係省庁連絡会議ヒアリング(12/25)の出席報告

四病協の医師確保対策として、医療法の標準員数は地域特性を踏まえ柔軟に対処できるようにする、不足地域には医学部の特別枠を設ける、名義借りの背景に診療報酬の減算と医療法の問題があり両者は切り離して考える、医療法の外来患者数を計算式から除外する、という 4 点を主張した。

4 . 第 1 回臨床検査室認定プログラム開発委員会(12/26)の出席報告

各病院の臨床検査室のレベルを客観的に評価しようという目的で、日本臨床検査標準協議会と日本適合性認定協会が共同でプログラムの開発を進めており、臨床検査関連の代表が招集されて第 1 回の委員会が開催された。

5 . 第 14 回医療分野の規制改革に関する検討会(1/7)の出席報告

今回でほぼ議論が出つくしたので次回 1/29 で打ち上げの予定。当初は派遣業務の解禁のあと、混合診療と株式会社の参入について検討するスケジュールであったのが変更となり、結局当り障りのない報告となるもよう。

6 . 国際モダンホスピタルショウ 2004 開催説明会(1/20)の報告

今年のホスピタルショウの開催説明会を開き、出席したプレス関係 16 社、出展企業関係 150 社に概要説明を行った。今年は 7/14～16 の 3 日間、東京ビッグサイトで開催、出展申込受付は 3/19 までとしている。

7 . 第 54 回日本病院学会の開催案内について

7/2～3、横浜開催の第 54 回日本病院学会の案内と演題募集について説明があり、テーマは「健康社会、愛と信頼の病院をめざして みなと未来からの提言」。神奈川県 11 の地区病院協会、11 のコメディカル協会が県病院協会と共同行動をとり、プログラムにも盛り込まれている。

8 . 第 45 回日本人間ドック学会の開催について

8/26～27、名古屋で開催され、「健やかに老いるために」をテーマに、会長講演、特別講演、公開講座、シンポジウム等が予定されている。

9 . 第 44 回日本人間ドック学会の収支会計報告について

昨年、京都で行われた第 44 回日本人間ドック学会の結果について、参加総数が 6,059 人、また収支決算の説明がなされ了承された。

10 . その他

- (1) 厚労省からの通知 4 件、「報告を求める事例の範囲」「厚生労働大臣医療事故対策緊急アピール」「国内でのテロ事件発生に係る対応」「両立支援推進会議開催の案内」について説明があった。
- (2) 救急救命士による特定行為の再検討に関する研究班の「病院（手術室）実習ガイドライン」が説明された。気管挿管の手術室内実習について、研修方法、内容、実習受け入れ方法などが記載されている。

〔協議事項〕

1 . 平成 15 年度補正予算（案）について

年度当初の予算制定時に、事業の一部未確定については実施状況をみて予算修正もあるとしていたが、通信教育受講料の大幅増に伴い、事業特別会計から繰入れ増額するなどの収支補正予算案を承認した。

2．平成 16 年度事業計画（案）について

前回提出の事業計画 23 項目のうち、12．学会及び病院大会等の開催に関する事項の 3 学会の開催計画については、会計処理の必要性から別途「関連事業」としてまとめた。四病協の医療安全管理者、感染管理者、臨床研修指導医の各養成講習会も、セミナーの関連事業として追加記載した。

3．平成 16 年度収支予算（案）について

従来予算が、前年度繰越金を含めて、各事業に余裕をもたせ配分していた点を改め、単年度予算処理方式の収入に見合った支出で立案することとし、前年度の実績をもとに精査して各事業とも厳しく縮小した。一般会計と 5 つの特別会計の収入合計 17 億 9830 万円となる予算案について了承。

4．診療報酬改定について

診療報酬改定について議論され、検討項目が示されてプラスの部分が目目されているが、マイナスの財源がこれから出てくる。総論的な話が既に終わり、2/4 日諮問、2/6 日答申という流れからみると、来週の審議から具体的な点数が出てくると思うので、注目していきたい。入院基本料の増額を最重要に我々は要望しており、手術の施設基準の撤廃も求めている。DPC については適用拡大をめぐって中医協で応酬があるが、抜本改革の流れという方向に進むのは間違いない。実際に 90 病院くらいが試行調査に参加しており、手挙げ方式も考えられる。

いずれにしても平成 18 年が重要な年になり、その間の 2 年間、日病、四病協がどう動くかが大事で、現場からの提言が重要である。病院は大なり小なり機能分化が進んでおり、中小病院も質を高めながら、生き残るための経営実践を行ってきている。ハイケア病棟は ICU から一般病棟に移る途中とされ、地域一般病棟は亜急性の議論から起こって 2 年後に急性と一般がはっきりするので、今から対応しておくことが必要である。

以上のような議論がなされ、また消費税については、今度免税点の引下げや簡易課税制度の改正によって益税が大幅になくなるので、同時に我々の医療における損税をなくするよう、今年から来年にかけて徹底的に取り組まなければならないと提言がなされ、議了した。